

令和3年度 事業報告書

法人の名称 特定非営利活動法人
ワーカーズ・コレクティブ
ケアびーくる

1 事業の成果

- 1) 単独では移動が困難な方々が外出することで生活の質を高められるよう、市民が持つリソースを発揮して互助の精神のもと参加型福祉の実現に務めました。地域に不可欠なサービスの存続を図るため、参加者の拡大に努めました。

コロナ禍が収まらず、2年が過ぎます。誰もが経験したことのない感染症拡大という状況下で、介助付き移動サービスの活動を継続しました。

- 新型コロナウイルスの感染拡大が質を変えながらも止まりません。感染から利用者もメンバーも守り、安心・安全の確保を図るため、会としての対応をすすめました。感染の不安のなかどうすれば利用者・ワーカー双方の感染のリスクを避けられるか話し合い、利用者個々の状況に合わせたサービスができないジレンマを感じながらも、蔓延防止等重点措置の発令中は院内付添や買物付添などは原則として行わず、送迎のみのサービスとすることを選択し、関係事業所にはがきでお知らせしました。しかしながら、避けられないニーズもあり、担当メンバーの承諾のもと、付添サービスも行いました。
- 限られた条件のなかで、ニーズにはできるだけ応え、年末年始も休むことなく活動しました。通院・入退院・通所・ショートステイのほか、利用は控えられているものの買物やリフレッシュ・墓参・花見などの様々な依頼にも応えました。定期的な透析や通所の利用もありました。
- 独居や高齢者のみの世帯など、手厚い支援を必要とする利用者が増えています。ケアマネジャーや地域包括支援センターなどとの連絡を密にとり、サービスを進めました。
- 利用者の新規入会・登録者は今年も多くありました。コロナワクチン接種のための新たな依頼や入会も増えました。
- 正会員は加入が1名あり、一方、前回総会時の継続確認で7名、年度中に2名の退会があり、3月末現在は39名です。日々の活動の参加者は24名（内、運転会員18名）です。
- 会所有の福祉車はリフト式のキャラバンが2台、ハイエースが1台、スロープ式のN-BOXが1台の計4台です。持込セダンの登録は12台ですが、実際には利用が限られる車両があります。
- 年度初めの4月に、若い運転会員が1名、法定の「運転者講習会」を受講し入会しました。しかしながら、仕事との折り合いがつかず、退会になりました。また、再就職で従事が困難になり、日々の活動からは外れたメンバーもいます。

- 家族の介護や他の仕事などとの掛け持ちのため、常時活動に参加できるメンバーが少ない状況が続いています。また、メンバーの高齢化も進んでおり、腰痛などの支障も出てきています。車いすのままの複数体制での階段の上り下りも担当できるメンバーが限られています。
- 物損事故が1件ありましたが、人身事故はありませんでした。
- 多くの利用者のニーズに応えることができました。
 新型コロナ感染症拡大の影響を大きく受けた前年度に比べ利用実績は増加し、利用者実数は拡大前（2019年度）の90%まで戻ってきています。
 感染拡大が収束しない状況にあっても、利用者延べ人数では2019年度を上回っており、外出支援はますます必要とされているといえます。
 前年度比、利用者実数は+40名、利用者延べ人数で+966人、利用総回数で+1,592回と増加しました。
 内、利用者延べ人数はケア事業で+859人、福祉車両助成事業で+107人でした。

2) 利用しやすい移動サービスを実現するため、大和市・神奈川県・国との協働や他団体・他機関との連携をすすめました。

大和市とは引き続き協働事業を実施し、利用者など市民の方々に貢献しました。

- 協働事業を開始してから18年目（6期の3年目）となりました。7期目に向けて4月に協働事業提案をし、10月に採択されました。
- 協働事業協定書にもとづいて、大和市からは引き続き、福祉車駐車場（4台分）およびストレッチャー等の保管場所、負担金の提供を受けました。
- 会存続のための喫緊の課題である、運転者の確保のための市主催運転者講習会と広報について、関係部署に窮状を訴え意見交換を重ねました。来年度、講習の広報については実現する運びとなりました。運転者講習会開催に関して一歩前進しました。
- 毎年の「広報やまと」への掲載のほか、「出張！ボランティア総合案内所」などで情報提供が行われました。
- 大和市福祉車両利用助成事業に関する受託事業を引き続き行いました。必要に応じ、担当課との調整を行っています。
- 市が設置している「大和市地域公共交通協議会」にケアびーくるから委員として参加し、福祉の視点から交通についての意見を述べました。
- 地域福祉の充実に関しては、以下の組織やネットワークに引き続き参加し、連携・交流を深めました。
 - ・コミュニティ・オプティマム福祉地域協議会 大和
 - ・神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会
 - ・NPO 法人かながわ福祉移動サービスネットワーク
 - ・全国移動サービスネットワーク
 - ・大和市民活動センター

- 3) ニーズに沿った質の高いサービスが提供できるよう介助研修や共育に努めました。
車両運行における利用会員の「安全と安心」を確保するため、安全運転と適切な運行管理に力を注ぎました。

常時心掛けている、利用者の「安全と安心」の確保はもとより、新型コロナウイルス感染のリスクから身を守るための取り組みを実施しました。

- マスクやアルコール消毒液などの感染予防のための備品は前年度申請した助成金で購入し、年度後半は県からの支給も始まりました。匿名の方やメンバーからのマスクの寄付がありました。新型コロナウイルス感染症対策と対応について整理し、利用者・メンバー双方の健康観察を行いました。これに伴い、非接触型体温計の整備を行いました。ワーカーズ想に講師をお願いし、非常時の装備についての研修をほぼ全員が受講しました。
- 車を使つての活動はいつも神経を使いますが、コロナ禍でさらに対処が求められました。3密を避ける、車内換気、アルコール消毒、マスク着用等、できるだけの対応をしています。メンバーひとり一人が緊張感を持ち、かつ利用者の方々への共感を持って、活動を進めました。
- メンバーが講習会や研修に参加、あるいはWEB会議に参加し、日頃のワークに生かしました。(安全運転講習会、学習会等)
- 必要に応じ、ストレッチャーやフルリクライニング車いすなどの扱い、福祉車両の車いす固定操作の再確認等の研修を個別対応で行いました。
- 運転に関して定年を定めたケアびーくるの内規に則り、70歳の節目で2名、また、安全運転の確認のために1名が外部の運転技能研修をそれぞれ受講し、運転業務を継続しています。
- 福祉車走行中の車いす利用者の安全確保のため、後付けのヘッドレスト「スマートレスト」の検討を進め、購入を決めました。
- 冬季の安全確保のため、福祉車3台(てのひら号、ハイエース、N-BOX)にスタッドレスタイヤを装着し、雪の日対策を行いました。
- 毎月定例会を開催し、安全で安心のサービス実現に向けて情報交換を行い、きめ細やかなサービス提供に努めました。受講した安全運転研修の内容やヒヤリハットの共有も図りました。
- 運行管理は日ごろから連絡を密にとり、正確かつきめ細やかな対応ができるよう努めました。
- 依頼にスムーズに対応できるよう、利用者名簿も整理しました。

- 4) 今後の会の存続を見据えた方策に引き続き取り組みました。

日々の活動に追われながらも、今後の会の存続を見据えて活動を進めてきました。平成28年度に取得した大和市指定NPO法人の更新申請を行い、12月に更新されました。

- 担い手拡大については、メンバーが常時、新しい仲間づくりを心がけました。メンバー募集のポスター掲示などにより問い合わせはありましたが、参加には結び付きませんでした。
- このままでは3年後には活動の継続が危ぶまれるとの危機意識のもと、コミ・オブ大和として市主催の運転者講習会開催の福祉政策提案を行いました。また、独自に関係部署との話し合いなどの機会を持つなど、働きかけを続けました。
- 時宜を捉え、リーフレットやチラシを配布しました。
- 新たな料金体系を導入して2年目。利用者にとってもメンバーにとってもわかりやすい料金体系となり、定着しています。
- 福祉車両更新のため7月に日本財団福祉車両助成事業に応募し、12月に助成が決定しました。17年目となったキャラバンは、かながわ移動ネットワークの紹介で2月に秦野のNPO団体に無償譲渡し感謝されました。新しいキャラバンは3月末に納車されました。
- ほかの福祉車は、ハイエースが13年目、てのひら号が7年目、N-BOXが3年目になります。
- 今年10月から完全義務化されるアルコール検知器の購入などのため複数の助成金制度にチャレンジしましたが、叶いませんでした。イオンの黄色いレシートキャンペーンの贈呈を受け、事務用品などの購入に当てます。来年度も引き続き参加します。
- 年間を通じて経費削減に努めました。
- 中・長期計画は随時見直しました。

5) 理事会と定例会を毎月開催し、参加型で問題解決をはかるとともに、研修と共育に努めました。

毎日の定期メールで情報を共有し、こまめな情報交換と問題解決に努めました。

- 理事会と定例会を毎月開催しました。保健福祉センターのほか、鶴間コミセン、生涯学習センターにも団体登録をし、会場を借りました。定例会はメンバー相互の情報交換の場とし、日々の問題点を共有化するとともに、解決に向け話し合いました。
- 定例会の議事録をメールで活動会員全員に送信し情報の提供を行い、共有化を図っています。

6) 地域への情報提供をおこないました。

- 「ケアびーくる通信」は発行しませんでした。ホームページの充実やブログならびにフェイスブックの更新に努めました。
- (ブログ更新：7回)
- 朝日新聞の桜ヶ丘インフォメーションに広告を掲載して頂きました(掲載：9回)。これを見ての利用の申し込みもありました。
- W.Co 連合会の働き方講座に講師を派遣しました。

2 事業内容

特定非営利活動に係る事業

① 外出介助等のサービス事業

ア ケア事業

- ・内容 通院入退院、通所通学、買い物等の外出介助および付き添いサービス
- ・日時 通年
- ・場所 大和市および隣接した市区
- ・従事者人員 24人
- ・対象者 移動制約者 284人（のべ利用者3939人）
- ・支出額 10,976,544円

イ 大和市福祉車両利用助成事業に関する受託事業

- ・内容 大和市福祉車両所施事業対象者における外出介助及び付添サービス
- ・日時 通年
- ・場所 大和市および隣接した市区
- ・従事者人員 24人
- ・対象者 移動制約者 74人（のべ利用者708人）
- ・支出額 2,999,753円

② 地域に向けて研修、啓発をはかる事業

- ・内容 ホームページの充実、ブログ更新（年7回）、facebookの更新
新聞折り込みチラシへの広告掲載（年9回）
ワーカーズ・コレクティブ連合会 働き方講座への講師派遣
- ・日時 随時
- ・場所 大和市内
- ・従事者人員 8人
- ・対象者 移動サービスを受けたことのない方および、そのご家族
ワーカーズ・コレクティブの働き方に興味のある方
- ・支出額 13,000円

③ その他、この会の目的を達成するために必要な事業

- ※ 今年度はその他の事業を実施していません。